

農業

令和3年6月号
会誌 No. 1678



目次

巻頭言

出会い方……………馬場 正 3

論壇

飼料用米再考……………荒幡 克己 4

農業懇話会

改正種苗法への期待と残された課題……………山口 亮子 6
—国内で沸き起こったさまざまな論点と今後の展望—

農事功績者座談会

養液栽培技術の確立によるトマトのブランド化……………大和田正幸 20
現地指導者のコメント……………鈴木 将稀 26
意見交換……………27

研究の最前線

黒毛和種肥育牛に対する暑熱の影響と
栄養管理による暑熱対策……………前田 友香 35

農業・農村の現場から

地域の人と産業を結ぶシードル造りを目指して……………原田 尚美 45

世界の農業は今

- 田んぼが挑むサケ養殖が示すもの……………山田 優 51
—米国カリフォルニア州で試験進む—

私の経営と志

- 奈良岡ファームグループの設立を目指して……………奈良岡拓志 57
—リンゴ・水稲・ニンニクの複合経営—

農大生の研究

- 干ばつに強いイネの開発を目指して……………射場木萌春 59
—農研機構と国際稲研究所における根の研究—

表彰

- 全国青年農業者会議2020
プロジェクト発表・農業青年の意見発表等受賞者…………… 62

統計情報

- 令和2年産大豆（乾燥子実）の収穫量…………… 64

農政情報

- 大日本農会だより…………… 66

- 編集部から…………… 66

会誌「農業」に関するアンケート

表紙写真説明

北海道「^{あつま}厚真産ハスカップ」の収穫の様子（北海道厚真町）

厚真町は日本一の作付面積を誇るハスカップの産地です。1982年ごろからJAでの取り扱いが始まり、現在のJAによる年間出荷量は約15tとなっており比較的新しい取扱品目です。果実は青紫色の1～2cm程度の大きさで、複雑な酸味と鮮やかなルビー色の果汁が特徴的であり、選抜と規格出荷により品質の維持・向上に取り組んでいます。現在「ゆうしげ」と「あつまみらい」が品種名で流通していますが、これは厚真町のみで栽培され、パティシエや市場で高い評価を得ています。

収穫期間は6月下旬～7月中旬であり、ふるさと教育として、季節には子どもたちが収穫やハスカップを使用したお菓子作りなどに取り組んでいます。

その昔は、アイヌ民族が不老長寿の実として食べていたといわれるほど栄養価が高く、近年の研究では豊富に含まれるポリフェノールによる、抗酸化・抗糖化・抗炎症作用等の厚真産ハスカップの機能が期待されています。

(写真及び文：厚真町産業経済課 小松 美香)